

県議会報告

2026年1月

新年あけましておめでとうございます



委員会の様子

11月定例会（11月25日～12月12日）では、一般会計補正予算、県職員や学校職員の給与に関する条例の改正など74議案が可決されました。私は会派の取り決めにより今回も一般質問をすることができませんでしたが、一般会計補正予算の内容や一般質問、委員会審議の様子をわかりやすくご説明します。

議案審議

1. 開会日に知事の議案説明、12月1日に各党の代表質問、2日から5日まで15人の議員の一般質問が行われました。その後、8日から3日間の各常任委員会（総務企画、環境福祉、産業観光、農林水産、土木建築、文教警察）における議案審議を経て、本会議最終日にすべての議案の採決が行われました。
2. 政府の経済対策に呼応して、約366億円の補正予算

が可決されました。主な内容は、物価高対策として、医療機関や社会福祉施設等に対する支援、LPGガス料金や中小企業者等の電気料金に対する支援。さらに、防災・減災・国土強靱化や産業基盤の整備を推進するための公共事業について、約272億円が計上されています。



のコメント

国土強靱化など従来型の公共事業に多額の補正予算が計上され、無駄の温床になって

一般質問

います。財源として、国庫支出金に加えて県の借金（県債）約154億円で賄うことになり、負担も増大します。

なお、今話題の「おこめ券」は県の担当ではありませんが、県内の市町でどのような対応がされるのか、注視したいと思います。

上関の使用済み核燃料廃棄物の中間貯蔵施設について、数名の議員が質問しました。

以前知事は、上関町に原発と中間貯蔵施設の2つの計画があることは、住民に過重な負担を強いるものであるとしていました。しかし、最近では地元上関町の責任において判断されるものであると方針転換し、さらにエネルギー政策は国の専管事項と言い、県としての責任逃れをするばかりです。

折しも、昨年以上関町に隣接する田布施町の町議会議員選挙で、中間貯蔵施設建設反対派が半数当選し、12月初めに行われた柳井市議会議員選挙でも、反対派が過半数を占めました。上関町だけでなく、県には隣接する市町の住民の

常任委員会の様子



意見を尊重して判断することを強く求めます。

私の所属する農林水産委員会では、米の作況指数の報告や牛肉の生産近代化計画、また鳥インフルエンザ対策などに関して説明がありました。本県は農業従事者の年齢が70歳を超え全一の年齢が高く、中山間部が国土の7割を占めています。山の中でひとり自然と闘っている私としても、国の言いなりではなく実情に沿った対策をしないと本県の農業は壊滅します。

終了後、県の農業士協会や有機農業の団体との意見交換会がありました。こうした人たちが抱えている課題や要望にもっと応えていかねばと意を強くしました。

選挙区・議員定数について

選挙区問題検討協議会が、議長の諮問機関として昨年6月に設置されました（5会派の県議11人で構成）。

12月5日に第3回の検討協議会が開催され、今回は、議員定数とその考え方について、各会派から意見を聞き、以下のとおり取りまとめが行われました。

・議員定数については、（現在の47から）3人減の44人とする。

・議員定数の検討にあたり、これまで用いていた「議員一人当たり人口の目安を3万人以上とする」とを基本とする考え方は今後適用しない。

次回は、選挙区及び選挙区ごとの定数について議論を行う。

今年5月に公表される国勢調査の速報値を踏まえて、6月頃議長に答申される予定です。

これにより、議員定数は2期8年振りに3人減となり、岩国・和木選挙区は1人減の4人になりそうで、来年春の選挙は厳しい戦いになります。

また、人口1人当たり3万人の基準は、法令に規定されているわけではありませんが、自ら設定した基準を合理的な説明なしにいきなり廃止するのは納得できません。



議会トピック

来年4月の選挙を控えて、県議の間では、選挙区や定数がどうなるのか、盛んに議論されています。

その中でやはり何といっても、議長の選挙区でもある周防大島町選挙区（定数1）をどうするかが話題の中心です。これまでの検討協議会でどのような議論が行われているのか明らかにされていませんが、今回の3万人の基準廃止が周防大島選挙区をそのまま維持することの布石だとすれば、到底許されることではありません。

前回の国勢調査による周防大島町の議員1人当たりの人口は約14,798人と岩国・和木地区の25,845人と比べても極端に少なく、1票の価値の平等という観点から大きな問題です。隣の柳井地区との合区が一番自然です。いくら議長のお膝下だからといってこれ以上の先送りは許されません。

井原すがこ後援会事務所

郵便 740-0017
住所 岩国市今津町
4-11-20
コーポビル 1階
電話 0827-21-9808

県知事選

（1月22日告示、2月8日投開票）

4期目を目指す現職に新人2人（いずれも女性）が挑む形になっていますが、この議会での珍しい光景を一部ご紹介します。

一般質問の3日目に有近真知子県議が登壇。現知事の県政運営を痛烈に批判しました。「今の山口県は、県議会が言うのなら仕方がないと、県職員の皆さんが諦めざるを得ないほど県議会が強くなり、そして知事が弱くなっています」

この部分は質問ではなく知事の答弁はありませんでしたが、終了後の記者のぶら下がり、知事は「ひどい言われ方だった。県民に必要なことを県議会に提案して一致して県政を前に進めている」と困惑した表情で語っていました。

私の経験でも、例えばあの高級車センチュリーの使用や県立大学の附属高校が周防大島に設置されることなど、議会の力により県政が歪められているという面が確かにありますが、みなさんはどのように感じておられるのでしょうか。今後の県政を占う重要な選挙であり、政党や企業・団体などにしばられず、多くの県民の自由な意思が表明されることを期待しています。

第25回

すがこと話そう！

日時 2026年2月14日（土）
場所 岩国市民文化会館 第2研修室
午前10時から12時
広中英明市議参加